資料１－２

第５次館山市総合計画

第３部　前期基本計画

最終案

令和8（2026）年3月

館山市

パブリックコメントの意見によって修正した箇所には
黄色マーカーを付しています

目次

第１章　施策体系 1
第２章　リーディングプロジェクト ～ 魅力的な たてやま を つくる ～ 3
第３章　目標別施策 16
　基本目標１　産業・経済 17
　　第１節 観光の振興 19
　　第２節 農水産業の振興 21
　　第３節 商工業の振興 23
　　第４節 新たな雇用の創出と 就業支援の強化 25
　　第５節 移住・定住の促進 27
　基本目標２　福祉・子育て・健康・予防・医療 29
　　第１節 地域福祉の推進 31
　　第２節 子育て環境の充実 33
　　第３節 高齢者福祉の充実 35
　　第４節 障害者福祉の充実 37
　　第５節 健康づくり・医療体制の充実 39
　基本目標３　教育・文化 41
　　第１節 学校教育の充実 43
　　第２節 青少年の健全育成強化 45
　　第３節 生涯学習の推進 47
　　第４節 歴史の継承と文化の振興 49
　　第５節 スポーツの振興 51
　基本目標４　都市整備・環境・防災・安全 53
　　第１節 都市整備の推進 55
　　第２節 脱炭素による持続可能な 社会の実現 57
　　第３節 資源循環型社会の構築 59
　　第４節　防災・消防・救急体制の強化 61
　　第５節 生活安全対策の充実 63
　基本目標５　市民参画・シティプロモーション・行財政運営 65
　　第１節 市民協働と シティプロモーションの推進 67
　　第２節 持続可能な行財政運営 69
第４章　計画とＳＤＧｓとの連動 72
第５章　地区別ビジョン 75
　館　山 77
　北　条 79
　那　古 81
　船　形 83
　西　岬 85
　神　戸 87
　富　崎 89
　豊　房 91
　館　野 93
　九　重 95

第１章　施策体系

<table>
<tr><td rowspan="3">基本構想</td><td>まちの
将来像</td><td colspan="2">みんなが主役 住んで楽しい</td></tr>
<tr><td>基本目標</td><td>基本目標１
産業・経済</td><td>基本目標２
子育て・健康・予防・福祉・医療</td></tr>
<tr><td>10 年後の姿</td><td>事業成長と多様な働き方、市民所得の好循環により、人材の集積が実現している</td><td>こどもの成長と自分らしい暮らしを見守る温かいまちが実現している</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期基本計画</td><td>リーディングプロジェクト
～魅力的な たてやま を つくる～</td><td colspan="2">１　たてやま の経済発展を
２　たてやま に愛着を持つ人を
３　安全・安心な たてやま で人を
４　社会の変化に適応可能な行政基盤を</td></tr>
<tr><td>目標別
施　策</td><td>第１節 観光の振興
第２節 農水産業の振興
第３節 商工業の振興
第４節 新たな雇用の創出と就業支援の強化
第５節 移住・定住の促進</td><td>第１節 地域福祉の推進
第２節 子育て環境の充実
第３節 高齢者福祉の充実
第４節 障害者福祉の充実
第５節 健康づくり・医療体制の充実</td></tr>
</table>

来て楽しい まち・館山

基本目標３ 教育・文化	基本目標４ 都市整備・環境・防災・安全	基本目標５ 市民参画・シティプロモーション・行財政運営
教育と歴史・文化、スポーツの力で活気あふれるまちが実現している	豊かな自然がいつもある、快適で安全なまちが実現している	まちづくりへの市民参画が活発となり、市民の幸福度を高める行財政運営が実現している

めざす

ふやす

はぐくむ

つくる

第１節 学校教育の充実 第２節 青少年の健全育成強化 第３節 生涯学習の推進 第４節 歴史の継承と文化の振興 第５節 スポーツの振興	第１節 都市整備の推進 第２節 脱炭素による持続可能な社会の実現 第３節 資源循環型社会の構築 第４節 防災・消防・救急体制の強化 第５節 生活安全対策の充実	第１節 市民協働とシティプロモーションの推進 第２節 持続可能な行財政運営

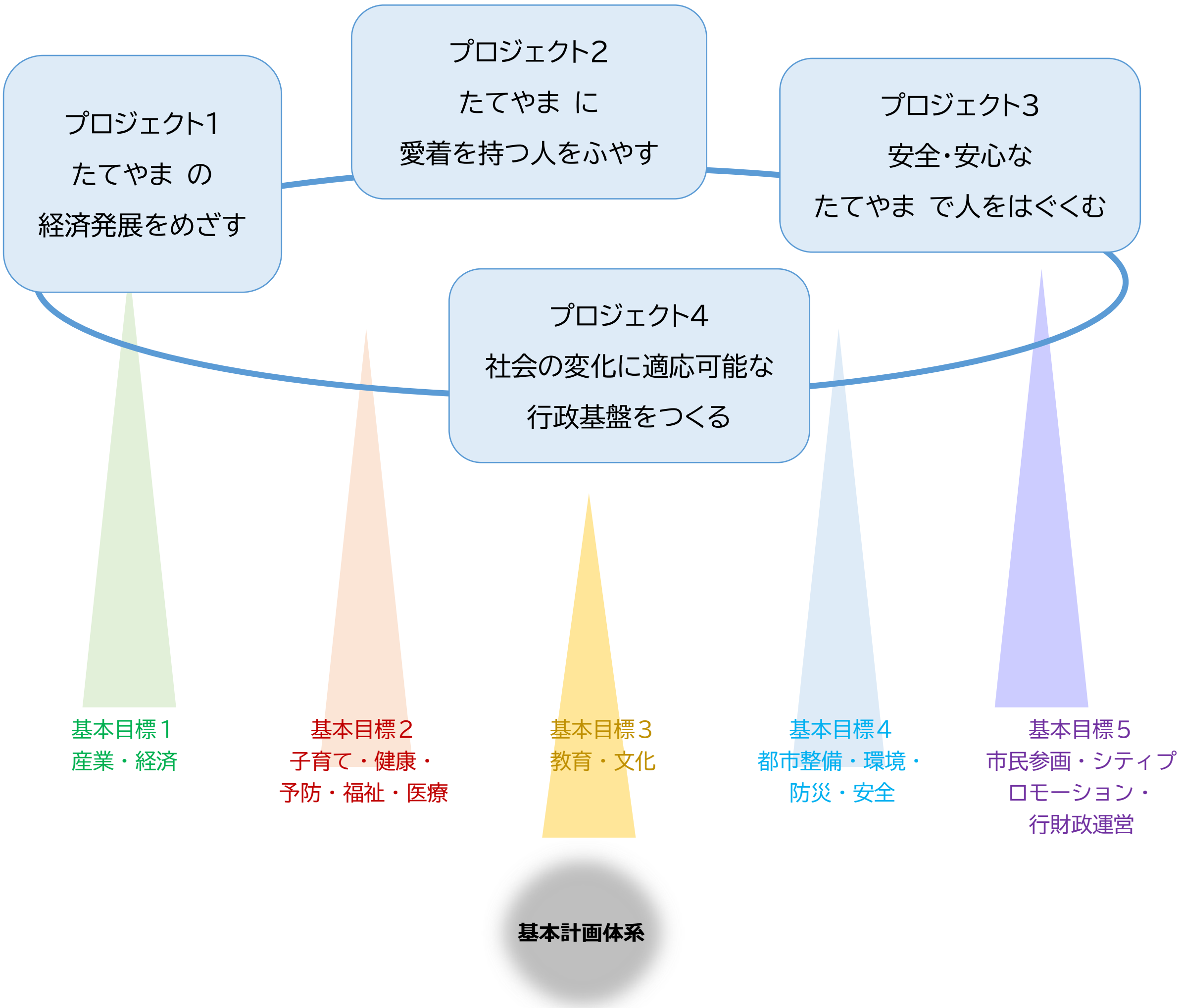
第２章　リーディングプロジェクト

～ 魅力的な たてやま を つくる ～

▶リーディングプロジェクトの趣旨

　リーディングプロジェクトは5つの基本目標の枠組みを超えて分野横断的に事業を連動させ、本市のまちづくりのテーマに取り組むプロジェクトです。

　リーディングプロジェクトは「第3期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付けます。



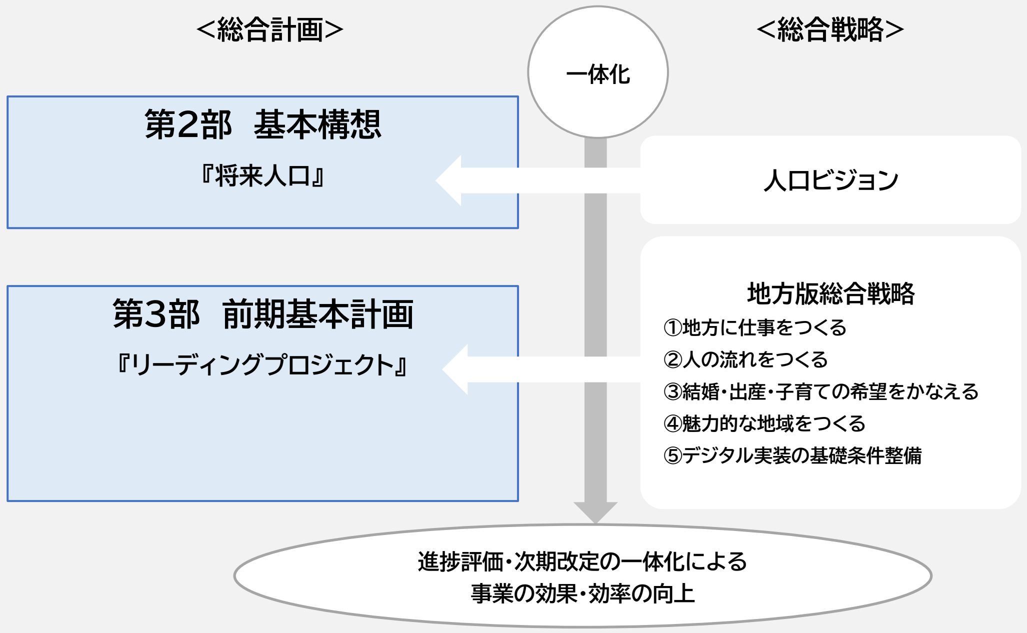
「総合計画」と「デジタル田園都市構想総合戦略」の一体化

本市は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年11月制定）に則り、平成27年度から２期11年（令和７年度まで）にわたり、「館山市まち・ひと・しごと創生（館山市人口ビジョン）総合戦略」に基づき、人口減少社会の課題を克服する地方創生に取り組んできました。

この間、国は第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を令和４年12月に新たに策定し、地方自治体にはこれまでの取組をデジタルの力を活用して継承・発展させていく地方版総合戦略の策定が定められました。

国の方針に沿って本市は令和8（2026）年度を初年度とする「第3期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

なお、総合戦略で目指す将来像及び人口ビジョンは市政の最上位計画である総合計画（本計画）で示していること、総合戦略の取組は総合計画（本計画）にも位置づけられていることから、本計画と総合戦略を一体化して効率的・効果的な施策推進と進行管理を行います。



総合戦略の計画期間は、前期基本計画と同様、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度の５年間です。後期基本計画を策定する年度に総合戦略を改訂します（予定）。

数値目標、重要業績評価指標（ＫＰＩ）の基準値と目標値

本計画では、
「基準値」は R6(2024)年度時点実績値
「目標値」は R12(2030)年度　　として記載しています。
＊設定した目標値が基準値を下回っている指標については説明を加えています。

▶リーディングプロジェクト、本市のテーマ、関連施策一覧

リーディングプロジェクト		たてやまの 経済発展をめざす	たてやまに 愛着を持つ人を ふやす	安全･安心な たてやまで 人をはぐくむ	社会の変化に 適応可能な行政 基盤をつくる
本市のテーマ		経済基盤の強化	急速な人口減少を抑制する	子育てしやすさ、安全・安心の暮らしの向上	行財政基盤の強化
総合戦略項目		しごと	ひと	まち	
		魅力的な地域づくり			
		デジタルの活用			
基本目標１ 産業・経済	第１節　観光の振興	●	●	●	●
	第２節　農水産業の振興	●	●		●
	第３節　商工業の振興	●			●
	第４節　新たな雇用の創出と就業支援の強化	●	●	●	●
	第５節　移住・定住の促進		●		●
基本目標２ 子育て・健康･予防･福祉・医療	第１節　地域福祉の推進			●	●
	第２節　子育て環境の充実			●	●
	第３節　高齢者福祉の充実			●	●
	第４節　障害者福祉の充実			●	●
	第５節　健康づくり・医療体制の充実			●	●
基本目標３ 教育・文化	第１節　学校教育の充実			●	●
	第２節　青少年の健全育成強化			●	●
	第３節　生涯学習の推進			●	●
	第４節　歴史の継承と文化の振興		●		●
	第５節　スポーツの振興		●		●
基本目標４ 都市整備・環境･防災･安全	第１節　都市整備の推進		●	●	●
	第２節　脱炭素による持続可能な社会の実現			●	●
	第３節　資源循環型社会の構築			●	●
	第４節　防災・消防・救急体制の強化			●	●
	第５節　生活安全対策の充実			●	●
基本目標５ 市民参画・シティプロモーション・行財政運営	第１節　市民協働とシティプロモーションの推進		●		●
	第２節　持続可能な行財政運営			●	●

「リーディングプロジェクト」の記載項目説明

プロジェクトの方向性
プロジェクトの目的と取組内容の概要を示しています。

取組内容
プロジェクトを構成する取組名、具体的な事業、重要業績評価指標（KPI）※を示しています。

プロジェクト１　たてやま の経済発展を めざす

▶プロジェクトの方向性

地域経済の持続可能な発展と所得向上を図るため、多様な働き方を可能にする環境整備、第1次産業と中小企業の生産性と競争力の向上とともに、地域の食文化・資源の循環・活用を軸とする地域経済の循環・成長に重点的に取り組みます。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
	法人市民税課税法人数	1,524 件	1,600 件
	法人市民税現年課税額	324,258 千円	328,000 千円
	観光消費額（推計値）	281.7 億円	320 億円

数値目標の経年グラフ（過去データ）の掲載（検討）

▶取組内容

①　新しい働き方を推進する

事業名		基本計画
サテライトオフィスやリモートワーク等を含めた企業誘致		目標１第４節
魅力ある雇用の創出と雇用のマッチング支援		目標１第４節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
企業誘致活動件数（5 年間累計）	延べ１９２件	延べ２００件

②　地域産業の担い手を支援する

事業名		基本計画
観光分野の DX 推進		目標１第１節
スマート農業の推進		目標１第２節
持続可能な水産業の振興		目標１第２節
中小企業の DX 推進及びデジタル人材の育成		目標１第３節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
認定農業者数（農業法人を含む）（5 年間累計）	104 人	104 人
認定農業法人数（5 年間累計）	21 法人	28 法人
新規漁業就業者数（5 年間累計）	13 人	65 人

③　地域経済の成長・循環を促進する

事業名		基本計画
食のまちづくりの推進による地域産業の活性化		目標１第２節
農水産物の６次産業化の推進		目標１第２節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
農産物等を使用した加工品の新商品開発数（5 年間累計）	0 品	50 品
館山ブランド認定数（5 年間累計）	3 品	18 品

数値目標
プロジェクトが目指す状態（目標値）を示しています。

基本計画（第３章）のどの施策に該当するか示しています。

※重要業績評価指標（ＫＰＩ）：施策・事業を的確に評価するための客観的な評価基準。

プロジェクト１　たてやま の経済発展を めざす

▶プロジェクトの方向性

地域経済の持続可能な発展と所得向上を図るため、多様な働き方を可能にする環境整備、第1次産業と中小企業の生産性と競争力の向上とともに、地域の特色や資源の活用を軸とした地域内外からのニーズに応えながら、地域経済の循環と成長を促します。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
1	法人市民税課税法人数	1,524 件	1,600 件
2	法人市民税現年課税額	324,258 千円	328,000 千円
3	観光消費額（推計値）	281.7 億円	320 億円

数値目標の経年グラフ（過去データ）の掲載（検討）

▶取組内容

①　新しい働き方を推進する

事業名		基本計画
サテライトオフィスやリモートワーク等を含めた企業誘致		目標１第４節
魅力ある雇用の創出と雇用のマッチング支援		目標１第４節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
~~企業誘致活動件数（5 年間累計）~~ サテライトオフィスを含めた企業誘致件数（5 年間累計）	~~延べ 192 件~~ 4 件	~~延べ 200 件~~ 5 件

②　地域産業の担い手を支援する

事業名		基本計画
観光分野の DX 推進		目標１第１節
スマート農業の推進		目標１第２節
持続可能な水産業の振興		目標１第２節
中小企業の DX 推進及びデジタル人材の育成		目標１第３節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
認定農業者数（農業法人を含む）	104 人	104 人
認定農業法人数	21 法人	28 法人
新規漁業就業者数（5 年間累計）	13 人	65 人

③　地域経済の成長・循環を促進する

事業名		基本計画
食のまちづくりの推進による地域産業の活性化		目標１第２節
農水産物の６次産業化の推進		目標１第２節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
農産物等を使用した加工品の新商品開発数（5 年間累計）	0 品	50 品
館山ブランド認定数（5 年間累計）	3 品	18 品

プロジェクト２　たてやま に愛着を持つ人を ふやす

▶プロジェクトの方向性

市外から人を呼び込むため、地域の特色や資源を生かした観光による交流人口の増加、ふるさと納税を中心とする関係人口の拡大とともに、移住・定住の促進に重点的に取り組みます。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
4	観光入込客数	1,877 千人	2,000 千人
5	宿泊客数	414 千人	500 千人
6	外国人宿泊客数	2,512 人	3,000 人
7	観光消費額（推計値）	281.7 億円	320 億円
8	移住相談経由の移住者数（5 年間累計）	200 人	200 人
9	転入者数（5 年間累計）	1,687 人	8,400 人

数値目標の経年グラフ（過去データ）の掲載（検討）

▶取組内容

①　交流人口を増やす

事業名	基本計画
食のまちづくりの推進	目標１第２節
スポーツ観光の推進	目標３第５節
花~~の~~と景観を生かしたまちづくりの推進	目標４第１節

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
“渚の駅”たてやま　年間来館者数	403 千人	500 千人
道の駅グリーンファーム館山　年間入込客数	23 万人	40 万人
スポーツ観光イベント参加者数	13 千人	13 千人

②　関係人口を増やす

事業名	基本計画
海辺のまちづくりの推進	目標１第１節
市内外への積極的な情報発信	目標５第１節
ふるさと納税及び企業版ふるさと納税の推進	目標５第２節

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
ＬＩＮＥ市アカウントフォロワー数	8,472 人	14,000 人
事前プレスリリース数	231 件	270 件
ふるさと納税返礼品登録地場産品数	540 品	660 品

③　移住者を増やす

事業名	基本計画
移住・定住の促進	目標１第５節
柔軟で多様な自分らしい働き方や暮らし方の推進	目標１第５節

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
移住相談件数（5 年間累計）	1,227 件	1,250 件

プロジェクト３　安全・安心な たてやま で人を はぐくむ

▶プロジェクトの方向性

子育て世代を含む、すべての世代が暮らしやすい環境づくりのため、少子化の流れを断ち切る子育て支援と学校教育の充実、市民の健康と介護を支える取組とともに、地域の支え合いによる防災力強化に重点的に取り組みます。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
10	婚姻率	3.6	3.6
11	合計特殊出生率	1.16	1.45
12	出生数（5 年間累計）	167 人	990 人
13	常住人口	42,502 人	40,500 人

数値目標の経年グラフ（過去データ）の掲載（検討）

▶取組内容

①　子育て世代を支援する

事業名		基本計画
子育て支援の強化		目標２第２節
ＩＣＴ活用による教育の推進		目標３第１節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
「元気な広場」利用満足度の割合	99%	現状維持
公設学童クラブ利用満足度の割合	99%	現状維持
保護者のメール配信システム登録率	99%	現状維持
教師用デジタル教科書活用率	48%	80%

②　安全・安心なまちをつくる

事業名		基本計画
福祉の現場における生産性向上の支援		目標１第４節
健康づくりへの支援		目標２第５節
安全・安心な暮らしのための防災力の強化		目標４第４節
行政・防災の拠点となる市庁舎の整備		目標５第２節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
ケアプランデータ連携システム導入事業所数（5 年間累計）	1 事業所	20 事業所
特定健診受診率	35.4%	44.0%
自主防災訓練実施率	38.4%	100%

プロジェクト４　社会の変化に適応可能な行政基盤を つくる

▶プロジェクトの方向性

人口減少による全国的な労働力不足や雇用環境の変化、働き手の価値観の多様化など、社会情勢が大きく変化するなか、将来に渡り持続可能で、変化に柔軟に対応できる「組織（職員)」と「経営（財源)」の維持・強化を目指します。

▶数値目標

番号	数値目標	基準値	目標値
14	働き易い・働き甲斐のある職場づくり （職員アンケートによる満足度調査）	数値なし	70.0%
15	財政調整基金保有額	17.0 億円	20.0 億円

数値目標の経年グラフ（過去データ）の掲載（検討）

▶取組内容

①　「コンパクトでしなやかな組織体制」への変革

事業名		基本計画
組織改革（機構・業務・意識・制度）の実施		目標５第２節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
時間外勤務の年間時間数（職員１人当たり）	103 時間	80 時間

②　歳入確保・歳出削減の取組

事業名		基本計画
第４次館山市行財政改革方針に基づく取組		目標５第２節
市税（基幹税：市民税・固定資産税）の適正な課税と公平な徴収による自主財源の確保		目標５第２節
公共施設等総合管理計画の推進		目標５第２節
重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
ふるさと納税額	6.3 億円	9.3 億円
『第４次館山市行財政改革方針』に掲げた実施計画（７８項目）の達成率	数値なし	100%
公共施設の延床面積（減少）	148,660 ㎡	118,928 ㎡

第３章　目標別施策

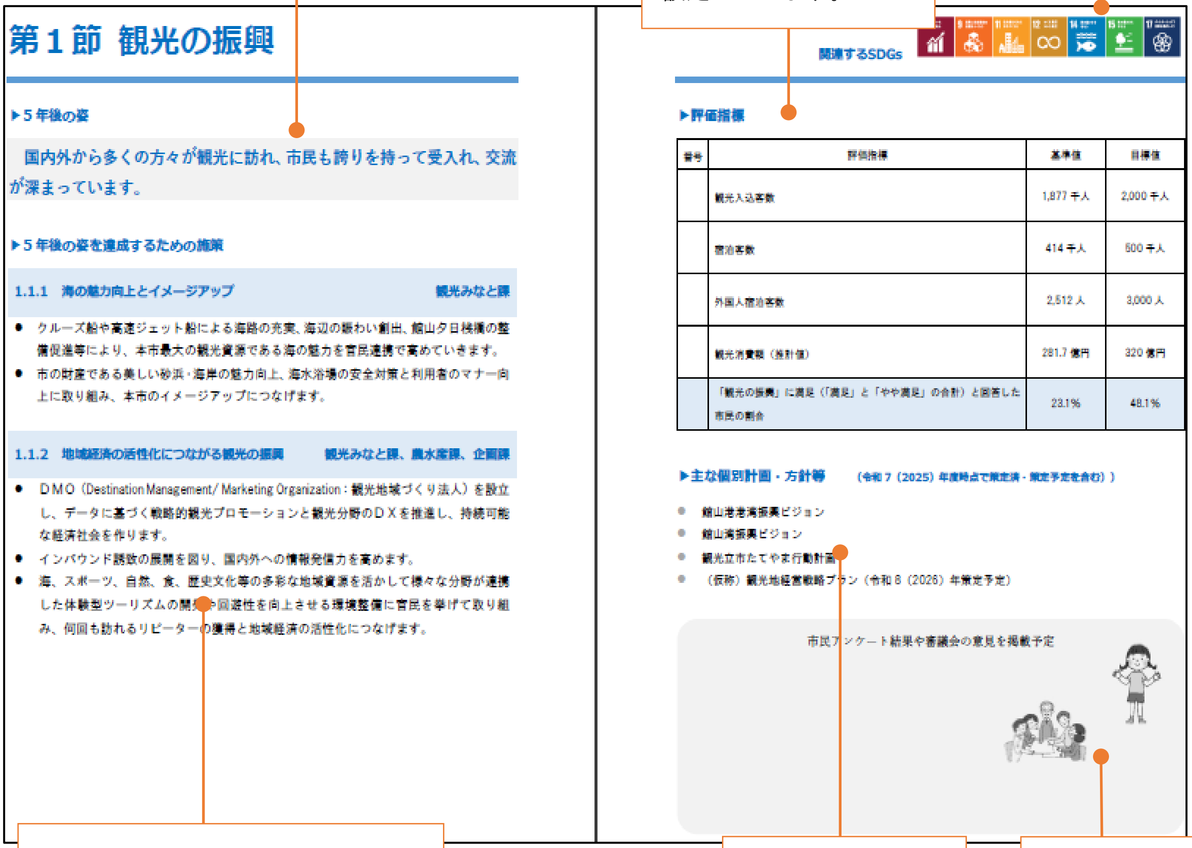
「目標別施策」の記載項目説明

５年後の姿
計画期間の５年後に施策が目指す状態を示しています。

評価指標
施策が目指す状態（目標値）を示しています。

指標は、客観指標（統計データ）と主観指標（アンケート）※の２種類を設定しています。

関連する SDGs
施策と関連の深いＳＤＧｓの目標を示しています。



第１節 観光の振興

関連するSDGs

▶５年後の姿

国内外から多くの方々が観光に訪れ、市民も誇りを持って受入れ、交流が深まっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

1.1.1　海の魅力向上とイメージアップ　観光みなと課

- クルーズ船や高速ジェット船による海路の充実、海辺の賑わい創出、館山夕日桟橋の整備促進等により、本市最大の観光資源である海の魅力を官民連携で高めていきます。
- 市の財産である美しい砂浜・海岸の魅力向上、海水浴場の安全対策と利用者のマナー向上に取り組み、本市のイメージアップにつなげます。

1.1.2　地域経済の活性化につながる観光の振興　観光みなと課、農水産課、企画課

- ＤＭＯ（Destination Management/ Marketing Organization：観光地域づくり法人）を設立し、データに基づく戦略的観光プロモーションと観光分野のＤＸを推進し、持続可能な経済社会を作ります。
- インバウンド誘致の展開を図り、国内外への情報発信力を高めます。
- 海、スポーツ、自然、食、歴史文化等の多彩な地域資源を活かして様々な分野が連携した体験型ツーリズムの開発や回遊性を向上させる環境整備に官民を挙げて取り組み、何回も訪れるリピーターの獲得と地域経済の活性化につなげます。

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
	観光入込客数	1,877 千人	2,000 千人
	宿泊客数	414 千人	500 千人
	外国人宿泊客数	2,512 人	3,000 人
	観光消費額（推計値）	281.7 億円	320 億円
	「観光の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	23.1%	48.1%

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山港港湾振興ビジョン
- 館山湾振興ビジョン
- 観光立市たてやま行動計画
- （仮称）観光地経営戦略プラン（令和８（2026）年策定予定）

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

５年後の姿を達成するための施策
計画期間に推進する施策名、施策の概要、主な所管部署を示しています。

施策と関連する個別計画・方針等を記載しています。

施策に関連する市民意見を記載しています。

※主観指標（市民意識調査）の目標値の説明
　市民意識調査における各項目について、これからのまちづくりを進めていく上で「重要である」「やや重要」と回答があった率を基に、５年後の目標値を定めています。
　重要度が設定されていない項目については、５年間で達成することが必要と考えられる目標値を定めています。

基本目標１　産業・経済

10 年後の姿▶

事業成長と多様な働き方、市民所得の好循環により、人材の集積が実現している

	現状	課題
観光	● コロナ禍の影響で観光全体が打撃を受けた後遺症から徐々に回復しています。 ● 外国人宿泊客数は台湾を中心に増加傾向にあります。	● 市域を超えた広域観光プロモーションを展開していますが、南房総の外国人知名度は依然として低く、戦略的な取組が必要となっています。
農水産業	● ６次産業化や担い手育成の支援、道の駅グリーンファーム館山を拠点に官民連携による「食」のブランド化や体験観光を進めています。	● 高齢化に伴い認定農業者や漁業従事者の減少、漁獲量の減少等、農漁業経営が厳しさを増す中、持続可能な産業振興の取組が重要となっています。
商工業	● 近隣市と連携し、起業支援、中小企業の安定した経営や房州うちわをはじめとする伝統産業の振興等に取り組んでいます。	● 地域内中小企業者の人材不足等解消のために、IT技術の導入や在宅ワークを推進し、業務効率化等を目指す必要があります。
雇用・就業	● 関係機関や近隣市町と連携した求職セミナーの開催や求人情報の提供、地方進出を検討する企業への誘致活動等に取り組んでいます。	● 魅力ある安定した雇用の場の創出とともに、求人・求職のミスマッチ解消を図り、働き手を確保していく必要があります。
移住・定住	● 南房総市やＮＰＯ法人と連携した移住相談対応やトライアルステイ（お試し移住）に加え、テレワーク・ワーケーションの推進等に取り組んでいます。	● これまでの移住施策に加え、移住への足掛かりとなる関係人口の創出・拡大や二地域居住の促進につながる施策にも注力していく必要があります。

写真等

写真等

写真等

写真等

写真等

第１節　観光の振興

▶５年後の姿

国内外から多くの方々が観光に訪れ、市民も誇りを持って受入れ、交流が深まっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

1.1.1　海の魅力向上とイメージアップ　観光みなと課

- クルーズ船や高速ジェット船による海路の充実、海辺の賑わい創出、館山夕日桟橋の整備促進等により、本市最大の観光資源である海の魅力を官民連携で高めていきます。
- 市の財産である美しい砂浜･海岸の魅力向上、海水浴場の安全対策と利用者のマナー向上に取り組み、本市のイメージアップにつなげます。

1.1.2　地域経済の活性化につながる観光の振興　観光みなと課、農水産課

- ＤＭＯ（Destination Management/ Marketing Organization：観光地域づくり法人）を設立し、データに基づく戦略的観光プロモーションと観光分野のＤＸを推進し、持続可能な経済社会を作ります。
- インバウンド誘致の展開を図り、国内外への情報発信力を高めます。
- 海、スポーツ、自然、食、歴史文化等の多彩な地域資源を生かして様々な分野が連携した体験型ツーリズムの開発や回遊性を向上させる環境整備に官民を挙げて取り組み、何回も訪れるリピーターの獲得と地域経済の活性化につなげます。

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
1	観光入込客数	1,877 千人	2,000 千人
2	宿泊客数	414 千人	500 千人
3	外国人宿泊客数	2,512 人	3,000 人
4	観光消費額（推計値）	281.7 億円	320 億円
5	「観光の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	23.1%	48.1%

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山港港湾振興ビジョン
- 館山湾振興ビジョン
- 観光立市たてやま行動計画
- （仮称）観光地経営戦略プラン（令和８（2026）年策定予定）

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第２節　農水産業の振興

▶５年後の姿

農水産物の競争力が高まり、販売が伸びています。
新たに農水産業を担う人・企業が増えています。

▶５年後の姿を達成するための施策

1.2.1　稼げる農業への転換支援　　農水産課

- 多様な経営体による農業・畜産の生産体制の強化、スマート農業の導入や農地集積・集約化による効率化と品質向上を中心に農地保全と経営の成長化を支援し、魅力ある農業への転換を促進します。

1.2.2　持続可能な水産業の振興　　農水産課

- 漁獲量の減少を補う養殖漁業の導入を支援し、漁業資源の増大を図ります。
- 関係団体と連携して漁業の生産性向上や市場競争力の強化、地域のにぎわい創出につながる漁港の利活用に取り組みます。

1.2.3　食のまちづくりを通じた地域活性化の推進　　農水産課、食のまちづくり推進課

- 地域ブランド品開発や拠点施設の活用により、本市の豊富な農水産資源、食文化、体験メニューなど地域の食の魅力を高め、食を通じた関係人口の広がりに取り組みます。
- 拠点施設を中心に生産者ネットワークの拡大と地場産品の情報発信を進め、地域経済の循環と活性化を促進します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
6	認定農業者数（農業法人を含む）	104 人	104 人
7	認定農業法人数	21 法人	28 法人
8	耕作放棄地	177ha	177ha
9	新規漁業就業者数（5 年間累計）	13 人	65 人
10	道の駅グリーンファーム館山　年間売上額	253,910 千円	377,193 千円
11	館山ブランド認定数（5 年間累計）	3 品	18 品
12	「農水産業の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	15.5%	40.5%

▶主な個別計画・方針等　（令和 7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市船形海業推進事業基本計画
- たてやま食のまちづくり計画

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第３節　商工業の振興

▶５年後の姿

　地域内経済循環への理解促進により、地場産品への関心が高まり、シビックプライドの醸成が図られています。

　市内企業の経営力強化や生産性向上が図られ、事業の継続や起業・創業がしやすい環境になっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

1.3.1　事業意欲を後押しする取組の実施　　雇用商工課、行革財政課

- 地域経済の回復と地域内経済が円滑に循環するよう、商工団体等を通じて消費者のニーズに合う商品・サービスの提供や経営力強化を図るため事業者を応援します。

1.3.2　市内の起業・創業を応援する取組の実施　　雇用商工課、企画課

- 市内での起業や創業を支援し、市内企業の育成と地域経済の活性化につなげます。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
13	ふるさと納税返礼品登録地場産品数	540 品	660 品
14	起業・創業支援者数（5 年間累計）	3 件	10 件
15	「商工業の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	9.8%	34.8%

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第４節　新たな雇用の創出と就業支援の強化

▶５年後の姿

若者が魅力を感じ、安心して働ける職場が増えています。

企業誘致等により、希望する就業機会や選択できる職種が増えています。

▶５年後の姿を達成するための施策

1.4.1　新たな雇用の創出と就業支援の強化　　雇用商工課

- 館山市の魅力や特性を生かし、サテライトオフィスやリモートワーク等を含めた企業誘致を推進し、新たな雇用の創出、地域課題の解決や地域経済の振興を図ります。
- ハローワークや近隣市町と連携し、地域の雇用ニーズを捉えた求職セミナーの開催や求人情報の提供等、求人・求職のマッチング機会を確保し、就業支援の強化を図ります。

1.4.2　介護・福祉人材の安定した人材確保　　高齢者福祉課

- 超高齢社会を迎える市民生活に福祉分野の人材不足が大きく影響することを考慮し、介護・福祉分野の人材確保に向けて働きやすい環境整備と就業支援の充実を図ります。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
16	~~企業誘致活動件数（5 年間累計）~~ サテライトオフィスを含めた企業誘致件数（5 年間累計）	~~延べ 192 件~~ 4 件	~~延べ 200 件~~ 5 件
17	求職者を対象としたセミナー開催数（5 年間累計）	26 回	30 回
18	介護職員初任者研修等受講費助成件数（5 年間累計）	30 件	100 件
19	「新たな雇用の創出と就業支援の強化」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	6.2%	31.2%

▶主な個別計画・方針等　（令和 7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市サテライトオフィス誘致戦略

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第５節　移住・定住の促進

▶５年後の姿

館山市民の幸福度が高まり、多世代が住み続けたいと思うまち、憧れの移住先として評価されています。

時間や場所にとらわれない柔軟で多様な働き方や暮らし方が進み、地域内外の多様な人材が活躍しています。

▶５年後の姿を達成するための施策

1.5.1　移住・定住、二地域居住の促進　　雇用商工課

- 館山市の魅力や特性を生かし、移住・定住や二地域居住を促進するとともに、テレワークやワーケーションなど、柔軟で多様な自分らしい働き方や暮らし方を推進します。
- 若者のＵターン促進や将来の選択肢の拡大につながる取組、顔の見える経済循環の取組を官民連携で推進します。

1.5.2　移住・定住の実現を応援する取組の充実　　企画課

- 多様な世代・主体間の交流を通じて本市への関心を高める取組を推進します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
20	館山市ワーケーション推進施設数	20 件	30 件
21	移住相談件数（5 年間累計）	1,227 件	1,250 件
22	将来を含めた居住意向がある（「できれば、ずっと住み続けたい」と「一度は市外へ出てみたいが、いずれは戻ってきたい」の合計）と回答した高校生（市内）の割合	63.8%	81.9%
23	「移住・定住の促進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	12.1%	32.1%

▶主な個別計画・方針等　（令和 7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山リノベーションまちづくり構想

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

基本目標２　福祉・子育て・健康・予防・医療

10 年後の姿▶

こどもの成長と自分らしい暮らしを見守る温かいまちが実現している

	現状	課題
地域福祉	● 地域の支え合い活動等の福祉分野に共通する取組を地域や関係団体等と連携して進めています。	● 孤独・孤立の問題をはじめ、分野横断的に複雑化･多様化するニーズに対応する仕組みを充実する必要があります。
子育て	● 近年の出生数は減少傾向、合計特殊出生率も低迷しており、少子化がさらに進んでいます。	● 妊娠・出産・子育てに関する相談支援の充実、保育環境の充実、子育て世帯の精神的･経済的な負担軽減が一層求められています。
高齢者福祉	● 団塊の世代が後期高齢者になり、一人暮らし高齢者や認知症高齢者の増加、介護ニーズの増加が見込まれます。	● 高齢者本人の介護予防支援と同時に、住民同士の助け合いを組み込んだ地域全体で支える仕組みの充実が求められています。
障害者福祉	● 障害者数全体は横ばいです。その中で療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向にあります。	● 相談支援事業所等の社会資源が周辺市町も含めて少ないため、限りある資源の連携と活用を一層図る必要があります。
健康づくり 医療	● 健康寿命の延伸を目指して、フレイル予防や生活習慣病等の重症化予防の取組を進めています。	● こどもの頃から適切な生活習慣を身に付ける必要があります。 ● 安定的な地域医療体制を維持する必要があります。

写真等

写真等

写真等

写真等

写真等

第１節　地域福祉の推進

▶５年後の姿

地域全体で支え合い、誰もが地域とつながる仕組みができています。

▶５年後の姿を達成するための施策

2.1.1　福祉の基盤となる包括的支援体制の充実　　社会福祉課、高齢者福祉課

- 地域活動や関係団体等の多様な主体と連携のもと、誰一人も“置いてきぼり”にしないよう、多様化・複合化する福祉課題に対応できる包括的支援体制の充実を図ります。

2.1.2　“暮らしにくさ”に寄り添う体制の充実　　社会福祉課

- 誰もが安心して暮らし続けられるよう、一人ひとりの“暮らしにくさ”に伴走しながら支援できる分野横断的な体制の充実を図ります。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
24	民生委員・児童委員定数充足率	92.0%	100%
25	協議体の新規設置数（5 年間累計）	2 団体	10 団体
26	「地域福祉の推進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	10.9%	30.9%

▶主な個別計画・方針等　（令和 7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市地域福祉計画・地域福祉活動計画

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第２節　子育て環境の充実

▶５年後の姿

こどもを安心して産み育てる環境が整い、子育てをする安心感が高まっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

2.2.1　安心して妊娠・出産・育児のできる環境づくり　　**健康課、こども家庭センター　社会福祉課**

- 妊婦及び乳幼児のいる家庭に切れ目のない支援を展開し、妊娠・出産・育児を通じて育児不安の軽減や孤立を防ぎ、乳幼児の健康の保持増進を図ります。

2.2.2　こどもが健やかに育つ環境づくり　　**こども課**

- 就学前及び小学校入学後の子育て支援の充実を図ります。
- 学校再編と連動し、保育園・幼稚園・こども園・学童クラブを計画的に整備します。

2.2.3　子育て家庭を守り支える環境づくり　　**社会福祉課、こども家庭センター**

- 家庭で安心して子どもを育てられるよう関係機関等と連携し、すべてのこどもが健やかに成長できる家庭支援を継続します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
27	乳幼児健診受診率	93.1%	100.0%
28	「元気な広場」利用満足度の割合	99%	現状維持
29	公設学童クラブ利用満足度の割合	99%	現状維持
30	「子育て環境の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	16.0%	41.0%

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市こども計画

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第３節　高齢者福祉の充実

▶５年後の姿

いくつになっても住み慣れた地域で暮らせる安心感が高まっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

2.3.1　高齢者を支える地域包括ケアの充実	高齢者福祉課

- 地域包括支援センターの機能強化と地域連携を進め、地域の中で人権を守り、支え合いながら暮らせる「長寿健康のまち」の実現を図ります。

2.3.2　高齢者の生活支援の推進	高齢者福祉課

- 介護保険制度の持続的･安定的な運営を図りながら、高齢化に伴う在宅サービスと施設サービスの確保と質の向上に取り組みます。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
31	元気が出る体操教室　新規立ち上げ数（5 年間累計）	2 件	10 件
32	認知症サポーター　新規受講者数（5 年間累計）	290 人	1,250 人
33	「高齢者福祉の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	19.0%	44.0%

▶主な個別計画・方針等　**（令和 7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））**

- 館山市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第４節　障害者福祉の充実

▶５年後の姿

障害に対する市民の理解が深まり、誰もが自分らしい暮らし方をできる地域に一歩一歩近づいています。

▶５年後の達成するための施策

2.4.1　障害者とその家族の暮らしを支える支援の充実　　社会福祉課

- 関係機関との連携や地域資源の活用を一層進めながら、障害者とその家族の暮らしを支える各種支援サービスや、相談支援体制などの充実を図ります。

2.4.2　障害者の生活の質（QOL）の向上　　社会福祉課

- 就労、地域活動、学習・スポーツ活動への参加を可能にし、自分の望む生き方を選べる環境づくりを推進します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
34	就労継続支援事業の利用者数	293 人	増加
35	地域活動支援センターの利用者数	41 人	増加
36	「障がい者福祉の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	10.7%	30.7%

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市地域福祉計画・地域福祉活動計画
- 館山市障害者基本計画、館山市障害福祉計画及び館山市障害児福祉計画

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第５節　健康づくり・医療体制の充実

▶５年後の姿

市民が自ら行う健康づくりと疾病予防（病気にならない行動）を支える環境ができています。

広域的な医療体制の確保と医療人材の育成ができています。

▶５年後の姿を達成するための施策

2.5.1　市民が主体的に行う「適切な生活習慣」の普及　　健康課

- 市民一人ひとりが自らの健康を守る生活習慣を身につけ、生涯にわたって健康づくりと疾病予防に主体的に取り組むための支援の充実を図ります。

2.5.2　地域医療体制の維持　　健康課、市民課

- 市民の健康の保持・増進を支える国民健康保険と後期高齢者医療制度の適切な運営と、休日や夜間を含めた地域医療体制の維持を図ります。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
37	特定健診受診率	35.4%	44.0%
38	「保健・医療体制の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	25.2%	50.2%
39	「健康づくりの推進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	20.5%	40.5%

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市健康増進計画～健幸たてやま21～

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

基本目標３　教育・文化

10 年後の姿▶

教育と歴史・文化、スポーツの力で活気あふれるまちが実現している

	現状	課題
学校教育	● 学校教育の充実により、児童生徒の「生きる力」の育成を図っています。	● 少子化の時代においても一定の学校規模を継続的に維持し、児童生徒の教育環境の整備・充実に努める必要があります。
青少年健全育成	● 地域住民の協力で放課後子供教室やふるさと体験活動にたくさんのこどもたちが参加しています。	● 少子化が進む中、地域資源を生かして幅広い体験・学習機会を創出していく必要があります。
生涯学習	● 中央公民館、図書館、博物館が専門性を生かし、市民ニーズに応える多くの講座･イベントを開催しています。	● 人生100年時代を迎え、大人の学び直しや学習環境の充実と、学習成果を地域で発揮できる仕組みを強化していく必要があります。
文化	● 郷土資料の収集や市民の芸術文化活動支援を通じて、地域独自の歴史・文化の振興に取り組んでいます。 ● 博物館本館・館山城は毎年5～6万人が来館し、本市の歴史･文化に触れています。	● 有形・無形文化財の保存と同時に、多くの人に郷土の魅力を発信していく必要があります。 ● 地域の歴史・文化を伝える資料を次世代へ継承するため、博物館施設の改修等を含む老朽化への対策が求められます。

スポーツ

- 市民のスポーツの習慣化を目的に地域に密着したスポーツ･レクリエーション活動を推進するとともに、スポーツ観光の視点から各種イベントの開催・支援をしています。

- スポーツ推進委員や指導者の減少、スポーツ大会エントリー数の伸び悩み、社会体育施設の老朽化への対策が求められます。

写真等

写真等

写真等

写真等

写真等

第１節　学校教育の充実

▶５年後の姿

質の高い教育環境の構築が着実に進むとともに、児童生徒の個性を尊重して「生きる力」を育成する教育が行われています。

▶５年後の姿を達成するための施策

3.1.1　「生きる力」を育成するための教育活動の充実　教育総務課

- 「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育み、「生きる力」を育成するための教育活動を推進します。
- 児童生徒の興味・関心や体験的な活動を重視し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ります。
- 一人一人の特性に応じた学習が行われるよう指導内容・方法の工夫改善を図ります。

3.1.2　質の高い教育環境の実現　教育総務課

- 少子化に対応した適切な教育環境に向けて、館山市立小中学校再編計画に基づく取組を着実に推進します。
- 児童生徒の快適な学習環境の整備と、安全に安心して学べる教育環境の確保を図ります。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標		基準値	目標値
40	館山市立小中学校における標準規模校の割合		23.1%	40.0%
41	特色ある学校づくりの推進（小規模特認校・学びの多様化学校）		0 校	2 校
42	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した割合（「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の合計）	児童	83.1%	増加
		生徒	83.3%	増加
43	自分にはよいところがあると思うと回答した割合（「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の合計）	児童	81.7%	増加
		生徒	82.3%	増加

▶主な個別計画・方針等　（令和 7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市教育基本計画
- 館山市立小中学校再編計画

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第２節　青少年の健全育成強化

▶５年後の姿

10代の郷土への愛着が高まっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

3.2.1　地域資源を生かした体験活動の推進　　**生涯学習課、中央公民館**

- 自然、歴史、文化、産業等の地域資源を生かし、地域と連携して児童生徒の体験の場・学びの場を広げます。

3.2.2　地域と連携した青少年健全育成活動の推進　　**生涯学習課**

- 若者にまちの次代を担う心が育まれるよう、ＰＴＡ、子ども会、青少年相談員、社会教育関係団体等の自主的な青少年健全育成活動を支援します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
44	放課後子供教室実施割合 ＊感染症等で中止になることを想定して設定しています	96.8%	95.0%
45	「青少年の健全育成強化」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	13.5%	33.5%
46	館山市に「自分たちのまち」としての愛着を感じている（「愛着がある」と「どちらかというと愛着がある」の合計）と回答した高校生（市民）の割合	73.3%	86.7%

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第３節　生涯学習の推進

▶５年後の姿

生涯を通じて学び続けることができる環境と、学びを地域活動に活かせる仕組みになっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

3.3.1　郷土の継承・発展に資する生涯学習の支援

生涯学習課、中央公民館、博物館、図書館

- 市民ニーズに応える多様な学習機会の創出と市民主体の学習活動を支援します。
- 市民一人ひとりの知識や経験等を郷土の継承・発展に活かす仕組みの充実を図ります。

3.3.2　図書館の教育・情報拠点化の充実

図書館

- 図書を通じたこどもたちの豊かな学びを支援します。
- 生涯学習の教育・情報拠点としてレファレンスサービスと蔵書の充実を図ります。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
47	生涯学習出前講座　開催件数 ＊過去 5 年の平均値から目標値を算出しています	110 件	100 件
48	公民館講座参加者割合	8.6%	11.6%
49	図書館イベント参加者数（千人当たり）	19.4 人	20.4 人
50	図書貸出数（人口一人当たり）	2.6 冊	2.8 冊
51	「生涯学習の推進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	13.0%	28.0%

▶主な個別計画・方針等　（令和 7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市図書館の基本的運営方針
- 館山市子ども読書活動推進計画

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第４節　歴史の継承と文化の振興

▶５年後の姿

郷土の歴史と文化を大切にする意識が広がり、多様な文化交流につながっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

3.4.1　歴史・文化の保存と活用　　生涯学習課、博物館、図書館

- 文化財保存活用地域計画を策定し、有形無形の文化財の発掘・保存とともに、歴史・文化資源を活用したシビックプライドの醸成、地域独自の観光・学習の場を創出します。
- 稲村城跡について、各種団体との連携を図り適切な保存管理体制を構築した上で、整備活用の方向性について検討します。
- 博物館では、郷土資料を収集するとともに、展示や講座などにより、市内外の幅広い世代が地域の歴史・文化を学ぶ機会を提供します。

3.4.2　芸術文化活動の活性化、多様な文化交流の推進　　生涯学習課

- 芸術文化活動の学習の場と発表の場を提供し、市民の自主的な芸術文化活動を支援します。
- 芸術文化活動の振興を通じて郷土の魅力発信と多様な文化交流を推進します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
52	博物館本館・館山城入館者数 ＊基準年度は例年と比べて入館者数が突出していたことから、 過去の入館者数の推移から目標値を設定しています	64,932 人	61,000 人
53	赤山地下壕跡入壕者数	28,248 人	31,000 人
54	たてやまフィールドミュージアム（インターネット）年間閲覧者数	49,007 人	75,000 人
55	博物館講座参加者数	1,252 人	1,300 人
56	「歴史の継承と文化の振興」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	19.3%	39.3%

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 文化財保存活用地域計画（令和8（2026）年度策定予定）

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第５節　スポーツの振興

▶５年後の姿

市民一人ひとりがスポーツを自主的・継続的に親しむ気運が広がり、スポーツの持つ力が地域活性化につながっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

3.5.1　スポーツを生涯楽しめる環境づくり　　スポーツ課

- 誰もが生涯にわたって安心して安全にスポーツを楽しめるよう、指導者養成と団体活動の支援、地域資源を生かしたスポーツの普及に努めます。
- 人口減少に対応した、スポーツをより楽しめる環境の整備に向けて活動拠点（施設）の再編成を推進します。

3.5.2　スポーツによるまちの活性化　　スポーツ課

- 地域資源等を最大限に生かした多様なスポーツイベントを開催・支援し、スポーツを「する、支える、応援する」文化の普及と交流人口の拡大に取り組みます。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
57	スポーツ用具の貸出件数	80 件	92 件
58	館山若潮マラソン　市民エントリー件数	650 件	1,000 件
59	館山若潮マラソン　市外からのエントリー件数	5,500 件	6,300 件
60	社会体育施設の市内利用者数	47 千人	47 千人
61	社会体育施設の市外利用者数	12 千人	14 千人
62	市内のスポーツイベント開催数（主催・共催・後援）	48 回	48 回
63	「スポーツの振興によるまちづくり」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	17.8%	32.8%

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

基本目標４　都市整備・環境・防災・安全

10 年後の姿▶

豊かな自然がいつもある、快適で安全なまちが実現している

	現状	課題
都市整備	● 道路や河川、排水路の適切な維持管理を行い、施設の安全確保に取り組んでいます。	● パトロールや定期点検により、状況把握に努めていますが、毎年、補修・整備などを要する箇所が発生しています。
	● 市街地循環バス、事前予約制乗合送迎サービスの運行、公共ライドシェアの実証運行など、公共交通網の維持・確保を進めています。	● 暮らしの利便性を高める多様な移動手段が求められています。
脱炭素社会	● 「第五次館山市地球温暖化対策実行計画」に基づき、市役所における地球温暖化防止を進めています。	● 自然環境の保全とカーボンニュートラルの実現に向けた地球温暖化対策を官民一体で取り組む必要があります。
資源循環型社会	● 1人1日当たりごみ排出量は若干減少しており、資源ごみ再資源化率は増加しています。	● 市民一人ひとりが環境への負荷を意識し、日常的にごみの減量化・再資源化に一層取り組むことが求められています。
防災消防救急	● 被害想定等の最新情報も踏まえながら、市民及び観光客の安全確保に取り組んでいます。 ● 消防団の団員数は減少傾向となっています。	● 激甚化・頻発化する自然災害に備えて、自助・共助・公助それぞれの取組をこれまで以上に進める必要があります。
生活安全	● 市内交通事故件数は減少傾向にありますが、高齢者の事故割合が多くを占めている状況です。また、犯罪の複雑化・凶悪化により被害が深刻化しています。	● 高齢者の事故防止、犯罪被害を未然に防ぐ環境づくり、消費生活相談員や関係機関と連携した消費トラブルの防止に一層の取組が求められています。

現状	課題
● 空き家件数は2,000件以上あり、その内、周辺に影響を及ぼす恐れのある空き家は約400件あると推計されています。	● 良好な住環境を目指し、効果的な空き家対策を進めることが求められています。

写真等

写真等

写真等

写真等

写真等

第１節　都市整備の推進

▶５年後の姿

インフラの適切な管理と長寿命化により生活環境が~~充実しています~~整っています。
交流と賑わいにつながる公共交通網整備が着実に進んでいます。

▶５年後の姿を達成するための施策

4.1.1　交流機能と防災機能を高めるインフラ整備の推進	建設課、都市計画課

- 市道や橋梁、トンネルの改良・維持補修、河川や排水路の整備を財政運営と連動しながら計画的に推進します。
- 幹線道路ネットワークである国道･県道･高規格道路の早期整備に向けて関係機関と連携して要望していきます。

4.1.2　暮らしの利便性を高める地域公共交通網の構築	企画課、都市計画課

- 持続可能性と利便性の視点から市民の移動ニーズと市内の回遊性を高める地域公共交通網の見直しやバス路線の再編、新たなサービス形態への転換を検討します。
- 地域の関係者との連携と協働を通じて、地域公共交通の利便性・持続可能性を高めます。

4.1.3　魅力を高める都市空間の創出	都市計画課

- 都市機能の集約を図り、市民・来訪者の利便性向上を図ります。
- 花と景観を生かし、交流と賑わいにつながる都市空間を創出します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
64	船形バイパス工事進捗率	29.5%	90%
65	道路排水整備延長（5 年間累計）	0m	300m
66	道路舗装施工延長（5 年間累計）	622.3m	1,500m
67	公共交通の年間利用者数（鉄道・路線バス・高速バス）	1,677 千人	現状維持
68	「交通体系の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	10.2%	35.2%

▶主な個別計画・方針等　（令和 7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市都市計画マスタープラン（令和9（2027）年改訂予定）
- 館山市立地適正化計画（令和9（2027）年策定予定）
- 館山市景観計画
- 南房総・館山地域公共交通計画（令和7（2025）年度改訂予定）

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第２節　脱炭素による持続可能な社会の実現

▶５年後の姿

　郷土の豊かな自然環境を守り、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた関心が高まっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

4.2.1　~~地球に優しく~~持続可能な地域づくりの推進	環境課、環境センター、農水産課、下水道課

- 館山市特有の豊かで多様な自然環境を未来につないでいくために、自然環境の保全を推進~~します。~~するとともに、生物多様性についても維持保全を推進します。
- 行政が率先して地球温暖化防止対策と脱炭素化を進め、温室効果ガスの排出量の削減に努めます。
- 市民･事業者の自主的なCO_2削減に向けたエネルギー利用の効率化･最適化を促進し、住宅用省エネルギー設備等への支援を通じて、脱炭素化を推進します。
- 再生可能エネルギーの地域内循環について、先進事例等を注視しつつ、研究していきます。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
69	公共施設のＣＯ$_2$排出量（減少）	16,366.1 t-CO2	14,402.1 t-CO2
70	住宅用省エネ設備等の設置件数	47 件	60 件
71	「環境・衛生対策の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	21.2%	41.2%

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第３節　資源循環型社会の構築

▶５年後の姿

資源の有効活用とまちの環境美化に対する理解と実践が広がっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

4.3.1　４Rの一層の普及　　環境課・環境センター

- 資源の有効活用を進めるため、家庭ごみや事業ごみの分別や適正搬出に向けた意識啓発を図ります。
- 環境負荷を軽減し、資源ごみ再資源化率を高めるため、より効率的な再資源化処理技術の導入を検討します。

4.3.2　地域ぐるみで進める清潔な環境の維持　　環境課

- 市民の協力を得ながら、地域全体で環境美化を推進します。
- 美しい自然環境を次世代に引き継ぐため、環境学習に取り組みます。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
72	1人1日当たりごみ排出量	1,125ｇ	未設定＊
73	資源ごみ再資源化率	13.3％	未設定＊
74	「資源循環型社会の構築」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	12.4％	32.4％

＊目標値は「館山市一般廃棄物処理基本計画」（令和8年策定予定）に設定する目標と同一とします

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市一般廃棄物処理基本計画（令和8（2026）年策定予定）
- 君津地域・安房地域循環型社会形成推進地域計画

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第４節　防災・消防・救急体制の強化

▶５年後の姿

市民と行政が一体となり、災害に強く安心して暮らすことのできる地域強靱化が進んでいます。

▶５年後の姿を達成するための施策

4.4.1　官民を挙げた防災力の強化　　危機管理課

- 大規模災害発生時の応急対応から災害復旧に至る一連の公助機能を発揮する体制の充実や施設整備を関係機関と連携して推進します。
- 市民・地域の自助・共助（近助）の力を高めるため、避難支援体制や自主防災組織の体制強化に取り組みます。

4.4.2　消防・救急体制の強化　　危機管理課

- 安房郡市広域市町村圏事務組合による消防・救急業務の体制強化を図ります。
- 消防団が迅速･安全に消防活動ができるよう、地域の協力のもとで消防団員の確保を促進するとともに、施設整備を推進します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
75	自主防災訓練実施率	38.4%	100%
76	旧耐震基準により建築された消防団詰所の更新（5 年間累計）	0 棟	2 棟
77	「防災体制の強化」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	23.9%	48.9%
78	「消防・救急の充実」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	38.9%	63.9%

▶主な個別計画・方針等　（令和 7（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市地域防災計画
- 館山市津波避難計画
- 館山市業務継続計画
- 館山市受援計画
- 館山市国土強靱化地域計画

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第５節　生活安全対策の充実

▶５年後の姿

交通安全、防犯、災害に強い住宅に対する関心が高まっています。

▶５年後の姿を達成するための施策

4.5.1　安全なくらしを支える交通安全・防犯の推進　　市民協働課

- 交通事故危険箇所の交通安全施設整備、地域の協力による防犯活動、消費者トラブルの未然防止対策を通じて安全な市民生活の維持に取り組みます。

4.5.2　住宅等の耐震化、空き家対策の推進　　建築施設課

- 災害時に自分と家族の生命を守る住宅等の耐震化への理解を高め、迅速な工事着手につなげます。
- 住環境の向上と地域全体の活性化を図るため、空き家の発生の抑制と利活用の促進に取り組みます。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
79	交通事故発生件数（暦年）	113 件	減少
80	犯罪発生件数（暦年）	235 件	減少
81	空家バンク新規登録物件数（5 年間累計）	3 件	50 件
82	特定空家等の件数（減少）	80 件	65 件
83	「交通安全・防犯体制の強化」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	25.4%	50.4%

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

基本目標５　市民参画・シティプロモーション・行財政運営

10 年後の姿▶

まちづくりへの市民参画が活発となり、市民の幸福度を高める行財政運営が実現している

	現状	課題
市民協働シティプロモーション	● 館山市市民協働条例に基づき選定された団体による事業を毎年度実施しています。 ● 男女共同参画や女性活躍・男性の育児参加等の推進を目的とした「コーラル会議」を開催し、多様な視点から議論を行い、市政に反映しています。 ● 市内外へ向けたシティプロモーションを展開しています。	● 人口減少、少子高齢化、未加入者の増加から町内会等の運営が困難な状況に直面しています。 ● 移住促進や観光振興につながるシティプロモーションの視点からの施策展開が必要になっています。
行財政運営・広域行政	● 市民サービス向上のため、マイナンバーカードの普及など自治体ＤＸの推進や人口減少社会に応じた公共施設の統廃合の取組を行っています。 ● 全国的な労働力不足や雇用環境の変化、働き手の価値観の多様化など、行政組織を取り巻く社会情勢が大きく変化しています。将来に渡り持続可能で変化に柔軟に対応できる「組織（職員）」と「経	● 持続可能な行財政運営に向けて、行財政改革の一層の推進と歳出の削減が必要となっています。 ● 将来に渡り必要な施策を着実に実行するため、持続可能な「組織づくり」と「行財政改革の一層の推進」が求められています。 ●

営（財源）」の体制づくりを進めています。	
● 館山市・南房総市・鴨川市・安房郡鋸南町の３市１町でさまざまな分野の社会課題の解決に取り組んでいます。	● 令和４年９月策定の「館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョン」等を踏まえ、広域の共通課題に対する一層の連携が求められています。

写真等

写真等

写真等

第１節　市民協働と
シティプロモーションの推進

▶５年後の姿

市民の地域活動に関わる意欲、まちに愛着を感じる割合が高まっています。
まちに関心や愛着を持つ人を広げる取組が展開されています。

▶５年後の姿を達成するための施策

5.1.1　持続可能な地域づくりの推進　　市民協働課、企画課

- 地域づくりの基盤となる地域団体が直面する諸課題の解決と地域活動の充実に向けて市民と一緒に検討します。
- 人口減少等に伴う地域課題への対処・解決に向けて多様な主体（市民、ＮＰＯ、企業、大学等）の技術・専門的知見を活かす取組を推進します。

5.1.2　男女共同参画と多文化共生による地域づくりの推進　　市民協働課

- ~~男女共同参画を柱に~~年齢や性別、障害の有無、文化的背景、性的指向・性自認など、多様性を尊重する気運が醸成され、すべての人が自分らしく個性を発揮できる地域づくりに市民とともに取り組みます。
- 第４期館山市男女共同参画推進プランの基本的な考え方を踏襲し、男女共同参画社会実現に向けた取り組みを推進します。

5.1.3　シティプロモーションの推進

- 国内外との民間レベルの交流、郷土の魅力の掘り起こし・再発見を通じて、市民のシビックプライドを醸成します。
- 市民・関係団体と連携してシティプロモーションの方向性・取組を創造し、継続性・統一性のある市民向け・市外向けのプロモーションを展開します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
84	市の審議会等の女性委員割合	28.74%	30%
85	ＬＩＮＥ市アカウントフォロワー数	8,472 人	14,000 人
86	事前プレスリリース数	231 件	270 件
87	館山市に「自分たちのまち」としての愛着を感じている（「愛着がある」と「どちらかというと愛着がある」の合計）と回答した市民の割合	77.6%	88.8%
88	まちづくり活動に「参加していない」と回答した市民の割合	42.8%	21.0%
89	まちづくり活動に「参加したくない」と回答した高校生（市民）の割合	16.7%	8.0%
90	「男女共同参画の推進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	8.1%	23.1%

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市男女共同参画推進プラン

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第２節　持続可能な行財政運営

▶５年後の姿

市民満足度の高い行政サービスが実施され、安定した組織運営と自治体経営が図られています。

▶５年後の姿を達成するための施策

5.2.1　安定的で質の高い行政サービスの実施

- マイナンバーの持つ利便性とデジタル技術を活用しながら、質の高い窓口サービス及び行政サービスを実施します。
- 安定的な行政サービスを継続するための環境を整備します。
- デジタル技術やビッグデータ等の活用、企業や大学等との官民連携を一層進めながら、事業の選択と集中による効果的な投資を計画的に実行する行政運営を行います。

5.2.2　行財政運営の健全化　行革財政課、総務課、企画課

- 複雑・多様化する行政課題に向き合い、基礎自治体として真に必要な業務を着実に実行できる「コンパクトでしなやかな組織体制」を構築します。
- 経験者や専門職の採用を拡充するとともに、年齢・性別・経歴にとらわれず、職員の能力や特性を生かした人材育成・人員配置を推進します。
- 人口減少社会のなか、人口規模に見合った公共施設のあり方や社会情勢の変化に対応した歳出削減、ふるさと納税をはじめ多様な手段による財源確保に取り組みます。

5.2.3　持続可能な地域づくりに向けた広域連携の推進　企画課

- 共通の課題を抱える安房３市１町と様々な分野の広域連携を一層強化し、持続可能で活力ある南房総地域を目指して効果的・効率的な取組を実施します。

現在はダミー

関連するSDGs

▶評価指標

番号	評価指標	基準値	目標値
91	マイナンバーカード保有率	81%	現状維持
92	時間外勤務の年間時間数（職員１人当たり）	103 時間	80 時間
93	ふるさと納税額	6.3 億円	9.3 億円
94	財政調整基金保有額	17.0 億円	20.0 億円
95	「戦略的な行財政運営」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	6.4%	26.4%
96	「広域行政の推進」に満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した市民の割合	8.1%	28.1%

▶主な個別計画・方針等　（令和７（2025）年度時点で策定済・策定予定を含む））

- 館山市行財政改革方針
- 館山市公共施設等総合管理計画
- 館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョン
- 館山市定員適正化計画
- 館山市職員人材育成基本方針

市民アンケート結果や審議会の意見を掲載予定

第４章　計画とＳＤＧｓとの連動

ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals）は平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際社会共通の目標であり、国連加盟国で平成27（2015）年に採択されました。ＳＤＧｓは「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂的のある社会の実現を目指し、国際社会全体で経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものであり、我が国も官民一体となってＳＤＧｓの実現を目指しています。

本市も国際社会の一員としての役割を担い、まちづくり施策とＳＤＧｓの目指す17の目標（ゴール）を関連付けることにより、計画推進をＳＤＧｓの目標達成につなげます。

国際社会全体で目指す持続可能な開発目標

1	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
2	飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
4	すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
5	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化（エンパワーメント）を行う
6	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
8	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
9	強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
10	各国内及び各国間の不平等を是正する
11	包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
12	持続可能な生産消費形態を確保する
13	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
14	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
15	陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
16	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

▶目標別施策とＳＤＧｓの目標（ゴール）との関係

	ＳＤＧｓの１７のゴール 目標別施策	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
基本目標１　産業・経済	第１節　観光の振興						
	第２節　農水産業の振興		●				
	第３節　商工業の振興						
	第４節　新たな雇用の創出と就業支援の強化	●			●	●	
	第５節　移住・定住の促進	●			●		
基本目標２　子育て・健康・予防・福祉・医療	第１節　地域福祉の推進	●	●	●	●		
	第２節　子育て環境の充実	●	●	●	●	●	
	第３節　高齢者福祉の充実	●	●	●		●	
	第４節　障害者福祉の充実	●	●	●	●		
	第５節　健康づくり・医療体制の充実	●		●	●		
基本目標３　教育・文化	第１節　学校教育の充実	●	●	●	●	●	
	第２節　青少年の健全育成強化			●	●		
	第３節　生涯学習の推進				●		
	第４節　歴史の継承と文化の振興				●		
	第５節　スポーツの振興			●	●		
基本目標４　都市整備・環境・防災・安全	第１節　都市整備の推進	●		●			●
	第２節　脱炭素による持続可能な社会の実現	●		●			●
	第３節　資源循環型社会の構築			●	●		●
	第４節　防災・消防・救急体制の強化	●			●	●	●
	第５節　生活安全対策の充実	●		●	●		
基本目標５　市民参画・シティプロモーション・行財政運営	第１節　市民活動とシティプロモーションの推進			●	●	●	
	第２節　持続可能な行財政運営	●	●	●		●	

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう
	●	●		●	●		●	●		●
	●	●			●		●	●		●
	●	●		●	●		●			●
	●	●	●	●	●					●
	●		●	●	●					●
	●		●	●					●	●
			●	●					●	●
	●		●	●					●	●
	●		●	●	●				●	●
	●		●	●						●
	●	●	●	●					●	●
			●							●
				●						●
	●	●		●				●		●
							●	●		●
●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
●		●		●	●	●	●	●		●
●	●	●		●	●	●	●	●		●
		●	●	●		●				●
		●	●	●	●				●	●
	●	●	●	●					●	●
			●	●	●				●	●

第5章　地区別ビジョン

〈 地区別ビジョンの趣旨 〉

本市が持続的なまちづくりを進める上では、市内各地区の個性を生かしながら~~均衡ある~~発展を図ることが重要です。そのため、市内を歴史的な成り立ちや地理的条件等を踏まえて 10 地区に区分し、各地区において「みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山」を実現するために、地区別ビジョンを策定します。

地区別ビジョンでは、市民意識調査や地区別懇談会等で挙げられた市民の声を参考にして各地区の特色、現状や課題とともに、市民・関係団体・企業等と行政がそれぞれの役割を果たしながら、「魅力の更なる磨き上げ」や「生活環境の向上」の実現に向けて連携・協働するための方向性を示します。

〈 位置付け 〉

地区別ビジョンは、第５次館山市総合計画、館山市都市計画マスタープラン・館山市立地適正化計画、その他の個別計画との整合を図ります。

〈 更新時期 〉

地区別ビジョンは、第５次館山市総合計画との整合を図るため、「後期基本計画」の策定に合わせて、市民の意見を踏まえて更新します。

〈 各地区が直面する共通課題 〉

本市におけるまちづくりには、地区を超えた共通の課題が存在しています。

- 人口減少や少子高齢化の進行
- 地域コミュニティの希薄化
- 産業や地域活動の担い手の確保
- インフラの整備や老朽化対策
- 災害による被害の防止や避難所の確保
- 空き地・空き家・耕作放棄地の増加
- 地域内・地域間の移動手段の脆弱性
- 公共施設の再編に伴う跡地の利活用

こうした共通課題とあわせて、各地区における課題の解決に向けて取り組んでいく必要があります。

写真等 写真等 写真等 写真等 写真等

写真等 写真等 写真等 写真等 写真等

館　山

〈 **特色** 〉

- 本地区は、本市の中央部に位置しています。「館山」という地名は、現在の城山に古来領主の館が建っていたことに由来しています。
- 沼地域では、今から約 6,000 年前のサンゴの化石を含む地層が見られ、「沼サンゴ層」として千葉県の天然記念物の指定を受けています。
- 戦国時代に里見氏が築いた館山城の城下町として、また港町として栄えました。近世以降は安房地域の中心地として発展し、館山藩の陣屋が置かれました。
- 昭和初期に海軍航空隊が設置される等、軍事と深い関わりを持ち、赤山地下壕跡をはじめとした戦争遺跡が各所に残っています。
- 市民の憩いの場である城山公園には館山城（八犬伝博物館）や市立博物館本館があり、「文化を育む城のまち」として賑わっています。
- 海水浴やスノーケリング等を目的とする多くの観光客が訪れる沖ノ島や、みなとオアシス“渚の駅”たてやま、館山夕日桟橋等が立地する等、「海辺のまちづくり」の中心となっています。

〈 **現状や課題** 〉

- 地域コミュニティの中心となる場所や、子育て世代を中心とした市民が楽しめる憩いの空間や環境づくりを求める声が上がっています。
- 貴重な地域資源である沖ノ島等の自然環境の保全を行うとともに、観光地として、また、地域住民の憩いの場として利活用を図っていく必要があります。
- 観光シーズンには多くの観光客が訪れていますが、駐車場の不足や周辺の交通渋滞、水上オートバイ等の危険航行等の迷惑行為が問題になっています。

《　住んで楽しい　来て楽しい　館山地区に向けて　》

■ 城山公園内の施設を含め、子育て世代を中心とした市民が集い、安心して楽しむことができるレクリエーションの場の充実を図ります。

■ 豊かな自然環境の保全を推進しながら、魅力の向上を図ります。

■ みなとオアシス“渚の駅”たてやまを中心としたエリア一帯で、賑わいや交流を創出する「海辺のまちづくり」をより一層推進します。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ

北　条

〈 特色 〉

- 本地区は平久里川と汐入川にはさまれた館山湾（鏡ヶ浦）に沿った平野部に位置する本市の中心地です。「北条」という地名は、古代から中世にかけて行われた条里制（水田の管理制度）の名残であるとも言われています。
- 江戸時代には北条藩の陣屋が置かれ、その後、明治時代には安房郡役所、北条町役場等が建てられました。
- 明治時代以降は安房地域の政治経済の中心地であり、特に、大正８（1919）年の国鉄安房北条駅（現ＪＲ館山駅）の開業により、地域一帯は大きく発展を遂げました。
- 現在はＪＲ館山駅やバイパス沿いを中心に、商業地や住宅地が広がっています。また、さまざまな行政・司法・金融機関が本地区に多く立地しています。

〈 現状や課題 〉

- 子どもたちが遊べる場所の充実が求められています。
- 交通結節点であるＪＲ館山駅においては、鉄道や路線バスの公共交通機関の接続性を高める等、更なる利便性の向上が必要です。
- 海岸利用者のマナーが問題になっています。

《　住んで楽しい 来て楽しい 北条地区に向けて　》

■ 地域の活性化や世代間交流につながるイベントや行事の実施を促進し、子どもたちが楽しく遊べる場所の充実を図ります。

■ ＪＲ館山駅周辺エリアの活性化を推進します。また、鉄道や路線バス、タクシー、公共ライドシェアなどが効率的に接続する公共交通網を構築するほか、案内標示など乗り継ぎしやすい環境の整備を行い、交通結節点としての利便性向上を図ります。

■ 館山湾（鏡ヶ浦）を中心とした魅力の向上につながる取組を進め、市民・来訪者ともに楽しむことができるまちを目指して、「海辺のまちづくり」をより一層推進します。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

北条地区の地図

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ

那　古

〈 特色 〉

- 本地区は平久里川の北に位置し、西側は館山湾（鏡ヶ浦）に面しています。「那古」という地名の由来ははっきりとはわかっていませんが、全国的には海辺の集落に「なご」という読みをする地名があるとされています。
- 縄文時代早期の遺跡である稲原貝塚からはイルカの骨や黒曜石が出土しています。当時の人々が黒曜石の産出地である伊豆半島等と交易をしていたこと等がわかっています。
- 奈良時代に開かれたと伝わる那古寺があり、古くから那古寺の門前町として栄えていました。那古寺の裏山（那古山）の林は、「那古山自然林」として市の天然記念物の指定を受けています。
- 明治時代に東京との交通に汽船が使われるようになると、那古の海岸に桟橋が造られ、人や荷物の発着で賑わい、町並みが海岸方面にも広がっていきました。
- 本地区の北側は山地、南側は平地で、稲作を中心に野菜や酪農、果樹栽培が行われています。

〈 現状や課題 〉

- 近年、台風等の大雨により排水路が溢れ、浸水被害が発生する箇所があります。
- 海岸では水上オートバイ等の危険航行等の迷惑行為が問題になっています。

《　住んで楽しい 来て楽しい 那古地区に向けて　》

■ 那古下水路を改修する等、排水対策を推進し、居住環境の向上を図ります。

■ 市民・来訪者ともに楽しむことができるまちを目指して、「海辺のまちづくり」を推進します。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

那古地区の地図

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ

船　形

〈 **特色** 〉

- 本地区は本市の北部に位置しています。「船形」という地名は、背後の堂山が船を伏せた形に似ていることに由来するとされています。
- 古くから漁業が盛んで、平安時代に造られた崖観音（大福寺）は漁民の信仰を集めてきました。
- 江戸時代には干鰯や薪等を江戸に送る廻船業で栄え、現在も館山有数の漁業基地である船形漁港があります。
- ＪＲ那古船形駅は大正７（1918）年に開業しました。本市に唯一残っている木造の駅舎です。
- 平成 15 年（2003）に経済産業省の伝統的工芸品の指定を受けた房州うちわの生産地として知られています。

〈 **現状や課題** 〉

- 災害時の避難経路として、また、観光客の海浜部への誘導並びに船形漁港の拠点機能の充実などによる地域の活性化や船形漁港から沖ノ島までを結ぶ「海辺のまちづくり」の一体的な推進のために、船形バイパスの早期竣工が必要です。
- ＪＲ那古船形駅の利用者が減少していることに加え、駅舎の老朽化が進んでいます。
- 漁業就業者の高年齢化や後継者の不足により、漁業就業者が減少しています。

《　住んで楽しい 来て楽しい 船形地区に向けて　》

■ 船形バイパスを整備することにより、災害時における安全確保と、観光客の海浜部への誘導等により、地域の活性化を図ります。

■ ＪＲ那古船形駅を地域の拠点や交通結節点として機能させるべく、鉄道事業者等と連携し、利活用の方策を検討します。

■ 館山市船形海業推進事業基本計画による取組を促進し、地域の活性化を図ります。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

船形地区の地図

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ

西　岬

〈 **特色** 〉

- 本地区は本市の西側に大きく突き出した位置にあり、三方を海に囲まれています。「西岬」という地名は、東京湾に岬のように突き出していることに由来して、明治時代に名づけられました。
- 東京湾の入り口にある洲崎には、大正８（1919）年に洲埼灯台が建てられています。
- 千葉県指定史跡である鉈切洞穴は縄文時代後期の土器とともに鮪等の魚の骨が出土しており、当時の人々がかなり遠方まで漁をしに行ったことがわかっています。
- 洲崎神社・洲宮神社（神戸地区）で祀られている天比理乃咩命（あめのひりのめのみこと）は、安房神社（神戸地区）の祭神である天太玉命（あめのふとだまのみこと）の后神（きさきがみ）です。
- 古くから農業・漁業が盛んで、神社仏閣で豊漁・豊作を祈願する行事が行われています。
- 本地区の南側では、温暖な気候を生かした花きの栽培が盛んです。

〈 **現状や課題** 〉

- 海岸付近の道路では飛砂が問題になっています。
- 地区内に大型の商業施設がなく、自家用車を利用できない方の買い物等のための移動手段を確保する必要があります。
- 三方を海に囲まれた立地を生かした観光分野の取組が求められています。

《　住んで楽しい 来て楽しい 西岬地区に向けて　》

■ 道路の適切な維持・管理を行い、居住環境の向上を図ります。

■ 地域住民の移動ニーズを踏まえた、利便性の高い公共交通網の構築を目指すとともに、住民間の助け合いによる地域内移動を確保できるよう支援します。

■ 洲埼灯台や、地区の歴史・文化を今に伝える神社仏閣、良好な自然景観を生かしたまちづくりを推進します。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

西岬地区の地図

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ

神　戸

〈 **特色** 〉

- 本地区は本市の南側に位置しています。
- 古代、阿波の忌部（いんべ）氏が上陸し、先祖の天太玉命（あめのふとだまのみこと）を祀ったのが、安房国一宮である安房神社です。「神戸」という地名は、安房神社を支える人たちの家があったことに由来しています。
- 砂防林によって守られてきた農地では野菜や花きの栽培が盛んに行われています。
- 本地区ではレタス栽培が戦後からはじめられ、館山ブランド認定品である「かんべレタス」の特産地として知られています。本市は国から冬レタスの「野菜指定産地」の指定を受けています。

〈 **現状や課題** 〉

- 他の地区につながる道路には狭隘な箇所があります。
- 地区内に医療機関がなく、自家用車を利用できない方の通院等のための移動手段を確保する必要があります。
- 営農者の高齢化に伴い、認定農業者が減っています。
- 千葉県立館山運動公園周辺の旧ウエルネスリゾートパーク計画事業用地の利活用が求められています。

《　住んで楽しい 来て楽しい 神戸地区に向けて　》

■ 緊急車両も通行しやすい道路を整備することにより、居住環境の向上を図ります。

■ 地域住民の移動ニーズを踏まえた、利便性の高い公共交通網の構築を目指すとともに、住民間の助け合いによる地域内移動を確保できるよう支援します。

■ 館山ブランド認定品である「かんべレタス」の生産体制の維持・強化を図り、他の特産品のブランド化を目指すとともに、担い手の確保に努めます。

■ 地域住民の意向を踏まえながら、地域の活性化につながるよう、旧ウエルネスリゾートパーク計画事業用地の活用を図ります。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

神戸地区の地図

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ

富　崎

〈 **特色** 〉

- 本地区は本市の南端に位置しています。「富崎」という地名は、布良崎神社に祀られている安房開拓の祖と伝えられている天富命（あめのとみのみこと）が上陸した岬という神話に基づいて、明治時代に名づけられました。

- 江戸時代中期に鮪の延縄漁が始まり、今も漁業が盛んな地区です。

- 明治時代を代表する洋画家 青木繁(1882 年～1911 年)が、布良にある小谷家住宅（市指定有形文化財）に滞在して「海の幸」（国指定重要文化財）を描いたことでも知られています。

- 人口減少により隣接する地区の小学校と統合された小学校施設は民間事業者による活用が進められ、雇用の創出や農福連携の推進、地域の活性化に寄与しています。

〈 **現状や課題** 〉

- 市内で最も高齢化が進行しており、人口減少が顕著となっているため、地域コミュニティの維持に努める必要があります。

- 本地区内に医療機関や商業施設がないため、自家用車を利用できない方の通院や買い物のための移動手段の確保が必要です。

- 地域特有の文化・歴史を伝える建造物等の適切な維持管理が求められています。

《　住んで楽しい 来て楽しい 富崎地区に向けて　》

■ 地域の課題や困りごとを住民同士の助け合いによって解決するための仕組みづくりを支援します。

■ 地域住民の移動ニーズを踏まえた、利便性の高い公共交通網の構築を目指すとともに、住民間の助け合いによる地域内移動を確保できるよう支援します。

■ 小谷家住宅をはじめとする地域資源の保全・活用に努めます。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

富崎地区の地図

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ

豊　房

〈 特色 〉

- 本地区は本市の南東部にある山あいに位置しています。「豊房」という地名は、安房で最もたくさんの作物が実る豊かな土地となることを願って明治時代に付けられました。
- 安房神社に仕える神戸の人々が増えたために、新しく開拓した場所が神余であると言われています。
- 古墳時代の横穴墓や祭祀遺跡、中世の城跡等が点在しています。鎌倉にある寺社が治めていた土地もあり、鎌倉と深いつながりを持っていたことがわかっています。
- 土地が豊かであることから、昔から稲作を中心に農業が行われてきました。畑地区は有数の千両の産地として知られています。
- 地区内の小学校が近隣住民のコミュニティの中心となっています。

〈 現状や課題 〉

- 本地区内を路線バスが運行していますが、集落とバス停が離れているところがあります。
- 高齢化の進行により、祭礼等の地域の文化を次世代に受け継ぐことが困難になっています。

《　住んで楽しい　来て楽しい　豊房地区に向けて　》

■　地域住民の移動ニーズを踏まえた、利便性の高い公共交通網の構築を目指すとともに、住民間の助け合いによる地域内移動を確保できるよう支援します。

■　地域の活性化につながる取組を行う地域住民を支援します。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

豊房地区の地図

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ

館　野

〈 **特色** 〉

- 本地区は本市東部の平地に広がっています。「館野」という地名は、平安時代に朝廷から孝心を賞された伴直家主（とものあたいやかぬし）の居館があったといわれる地が、館野原と称されたことに因んで明治時代に命名されました。
- 奈良時代には国分寺が置かれ、古代安房の中心として発展しました。
- 16 世紀前半に里見氏が居城とした稲村城跡（国指定史跡）や、正徳元（1711）年に万石騒動と呼ばれる農民一揆により処刑された「三義民」に関する三義民刑場跡及び墓（市指定史跡）等の史跡があります。
- 農業が盛んで、昭和 20 年代後半に本格的なイチゴの栽培が始まりました。毎年１月から５月頃にかけて、イチゴ狩りに多くの観光客が訪れます。
- 令和６（2024）年に、「食のまちづくり」を進める拠点施設として「道の駅グリーンファーム館山」が開業しました。

〈 **現状や課題** 〉

- 「里見氏城跡 稲村城跡」の環境を整備する必要があります。
- 農業をはじめとした地域産業の振興や地域の活性化のため、「道の駅グリーンファーム館山」の更なる活用が必要です。

《　住んで楽しい 来て楽しい 館野地区に向けて　》

■ 稲村城跡について、各種団体との連携を図り適切な保存管理体制を構築した上で、整備活用の方向性について検討します。

■ 「道の駅グリーンファーム館山」の機能を強化・拡充し、６次産業化や地産地消、地域内流通の更なる推進を図るとともに、消費者が農作業や新鮮な農産物を通じて食の魅力が感じられる「食と体験のテーマパーク」を目指します。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

館野地区の地図

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ

九　重

〈 特色 〉

- 本地区は本市の一番東側に位置しています。「九重」という地名は、明治 22（1889）年に当時の９か村が合併して九重村ができたことに由来しています。
- 平城京跡（奈良県）から出土した木簡（荷札）に地名が確認できることから、奈良時代に平城京へ大井・片岡地区から税を納めていたことが推測されています。
- 奈良時代から土地開発が進んだ地域です。水岡やぐら群（市指定史跡）をはじめとするやぐらや仏像等からは鎌倉文化の影響を受けていたことや、中世には豪族たちが活発に活動していたことがわかっています。
- ＪＲ九重駅は大正 10（1921）年に開業しました。
- 丘陵に囲まれた平野部では稲作を中心に、レンコンやナシ等の野菜・果樹、酪農等の多様な農業が行われています。

〈 現状や課題 〉

- ＪＲ九重駅の利用者が減少していることから、利便性の向上を図るとともに交通拠点としての機能の強化が必要です。
- 稲（館野地区）・宝貝にまたがる旧館山工業団地用地の利活用が求められています。

《　住んで楽しい 来て楽しい 九重地区に向けて　》

■　ＪＲ九重駅周辺エリアの活性化を推進するとともに、地域の拠点や交通結節点として機能させるべく、鉄道事業者等と連携し、利活用の方策を検討します。

■　里山の豊かな自然を保全しながら、地域の活性化につながるよう、旧館山工業団地用地の活用を図ります。

〈 地域の人口推移と予測 〉

〈　グラフ　〉

〈　グラフや表　〉

〈 地域資源と交通 〉

九重地区の地図

写真等

写真等

写真等

写真等

本ページにおける
地区別ビジョンのマンダラ